

特集

水と暮らす中世

発掘調査速報展2018 vol.2

材木座町屋遺跡／北条時房・顕時邸跡

2018年3月24日(土) - 6月9日(土)

開館時間／10:00→16:00 (入館は15:30まで)

休館日／日曜・祝日

主催／鎌倉歴史文化交流館 (鎌倉市教育委員会)

観覧料／一般300[210]円 小・中学生100[70]円

※ [] 内は20名以上団体料金

※本料金で本館平常展示もご覧いただけます。

※鎌倉市内の小・中学生と、市内の65歳以上の方、または障がい者手帳等の交付を受けた方と付き添い1名は無料となりますので、受付に学生証・福寿手帳等を呈示してください。

鎌倉歴史文化交流館

Kamakura Museum of History and Culture

鎌倉市扇ガ谷1-5-1 TEL:0467-73-8501



左から材木座町屋遺跡、同井戸遺構、北条時房・顕時邸跡、国指定史跡和興江嶋

鎌倉は源頼朝が幕府を開いた地として知られていますが、中世都市として発展した鎌倉には、武士をはじめ商人や職人など多くの人々が生活していたことがわかっています。それは、発掘調査により、鎌倉の地下から昔の人々が生活していた住居の跡が見つかったり、当時使っていた道具などが数多く出土したりするからです。

しかし、数百年前の人々の生活を知ることができる貴重な遺跡も、現代に生きる私たちが生活していくための土木工事などで失われてしまう場合があります。このように、やむを得ず失われる遺跡を可能な限り記録に残し、未来へ引き継ぐために発掘調査は行われています。

今回の速報展では、「水と暮らす中世」をテーマに、平成28年度に実施した発掘調査のなかから、材木座町屋遺跡（材木座二丁目236番1地点）と、北条時房・顕時邸跡（雪ノ下一丁目265番2地点）の調査結果を、出土した遺物と関連資料により紹介いたします。

鎌倉に住む人々の暮らしは、水とともにありました。中世人は、井戸を掘り、排水のために溝をつくり、都市生活の環境を整えていきました。とりわけ海に面する鎌倉は、多くの海産物を採ることができ、人工の港・和賀江嶋が築かれることで、交易の拠点ともなっていました。鎌倉の人々は、水とともに暮らすことで、多くの恵みを受けたのです。

日々、鎌倉市内で行われている調査のごく一部ですが、数百年前の鎌倉に住んだ人々の生活を思い描きながらご覧いただければ幸いです。

※本展は、平成29年8月に鎌倉生涯学習センターで開催した「鎌倉市遺跡調査会速報展」の内容を再構成したものです。

発掘調査速報展

特集

水と暮らす中世

◆学芸員による展示解説◆
会期中の毎週土曜日午前11時から
(申込不要、聴講無料、要観覧料)



材木座町屋遺跡
(材木座2丁目236番1地点)

この遺跡は、和賀江嶋に水揚げされた生活物資や交易品、建築材などが行き交う重要な道路であった小町大路の延長に位置し、古代から室町時代にかけての遺構・遺物が見つかりました。さまざまな種類の遺物が発見された他、建物跡や井戸、溝などから、工房で使う輪（ふいご）などの遺物も出土しているため、この場所は集積された物資の保管・加工を行っていた人々の生活跡と考えられます。



北条時房・顕時邸跡
(雪ノ下一丁目265番2地点)

この遺跡は、鶴岡八幡宮の南、若宮大路の西側に面し、鎌倉時代には北条氏の館があったとされる区画に位置しています。発掘調査では、鎌倉時代から室町時代にかけての館の一面と考えられる遺構や、若宮大路に沿った木組みを持つ溝、これに直交する小さな溝、漆喰が塗られた井戸や土坑・柱穴などが見つかっています。



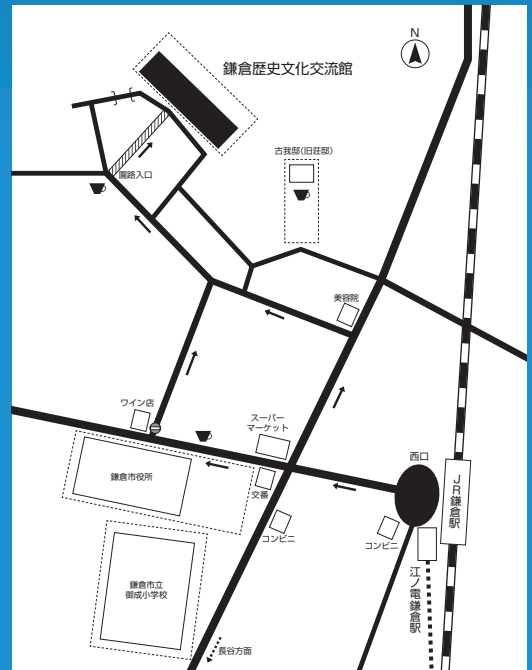
「全て材木座町屋遺跡出土」

頭蓋骨 (イヌ)

天目茶碗

三俣状骨製品

羽口



鎌倉歴史文化交流館
Kamakura Museum of History and Culture

〒248-0011 神奈川県鎌倉市扇ガ谷 1-5-1
TEL:0467-73-8501 FAX:0467-73-8545
rekibun@city.kamakura.kanagawa.jp
www.city.kamakura.kanagawa.jp/rekibun/koryukan.html

アクセス/ JR 鎌倉駅・江ノ電鎌倉駅から徒歩約7分
※一般用の駐車場はございませんので、お車のご来館は
ご遠慮ください。
※障がい者用駐車場をご利用の方は事前にご連絡ください。